

船舶事故等調査報告書

平成27年6月25日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2015長第15号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成27年1月6日 03時50分ごろ
発生場所	佐賀県唐津市小川島南南東方沖の平瀬 呼子平瀬灯台から真方位145° 140m付近 (概位 北緯33° 34.86′ 東経129° 54.68′)
事故等調査の経過	平成27年2月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	砂利運搬船 第十八福昌丸、487トン
船舶番号、船舶所有者等	134395、御前崎海運株式会社
乗組員等に関する情報	船長、五級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	船底に凹損及び破口
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか6人が乗り組み、管理土約1,480tを積載し、船首約3.4m、船尾約5.0mの喫水により、船長が単独で船橋当直を行い、小川島南東方沖を、平瀬を右舷側に見て通過するよう約240°（真方位、以下同じ。）の針路とし、約9ノットの対地速力で航行していた。</p> <p>本船は、船長が、南東進する漁船の灯火を船首方に視認し、同船を避けようと手動操舵として右舵を取ったところ、船首が約270°を向いた平成27年1月6日03時50分ごろ、平瀬南側の浅所に乗り揚げた。</p> <p>船長は、船底に衝撃を感じ、直ちに船体各部を点検したが、異常を認めなかったため、そのまま航行を続けた。</p> <p>本船は、後日、造船所に上架して調査した結果、船底部の損傷が発見された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 雨、風向 北西、風速 約17m/s、視程 約0.5海里</p> <p>海象：波向 南西、波高 約2.5m、潮汐 低潮期</p> <p>唐津地区には、強風波浪注意報が発表中であった。</p>
その他の事項	<p>船長は、本事故発生場所付近を過去に約12回航行しており、夜間に航行したことも約6回あり、平瀬が存在することを知っていた。</p> <p>船長は、平瀬灯台から約500～600m離して航行するつもりであったが、本事故当時、降雨と風波でレーダーの映りが悪く、視界が悪くてぼんやりとしか見えなかった呼子平瀬灯台の灯光を頼りに航行していたので、距離の目測を誤ったと思った。</p>

	<p>本船は、GPSプロッターを装備していたが、本事故時、作動させていなかった。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし あり</p> <p>本船は、夜間、視界及びレーダーの映りが悪い状況下、小川島南東方沖を西南西進中、船長が、船位の確認を適切に行っていなかったことから、南東進中の漁船を避けようと右舵を取ったところ、平瀬に向かう態勢となって航行し、平瀬南側の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、呼子平瀬灯台との距離を目測していたことから、漁船を避けようとした際、平瀬まで距離があるものと思った可能性があると考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、夜間、本船が、視界及びレーダーの映りが悪い状況下、小川島南東方沖を西南西進中、船長が、船位の確認を適切に行っていなかったため、南東進中の漁船を避けようと右舵を取ったところ、平瀬に向かう態勢となって航行し、平瀬南側の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レーダーの映りが悪い場合、GPSプロッターを活用して船位の確認を行うこと。</li> </ul>